

あめ 雨について 雨と川

やま ふ
山で降った
あめ
雨は
かわ なが
川に流れる。

じょうりゅう ふ
上流に降った
あめ
雨は
か りゅう なが
下流に流れる。

かわ なが みず
川に流れる水は
いろ いろ ところ あつ
色々な所から集まり、
おお なが
大きな流れになる。



あめ 雨について し ほう ほう 知る方法



レーダーや雨の量を
はかっている観測所の
データを見ることができます。
かわ よう す
川の様子をカメラで
み
見ることができます。





じ ぶん み じ ぶん まも 自分の身は自分で守る

あん ぜん ひ なん 安全に避難するために！ その1

ふか ある
深いところは歩かないようにしましょう。

ある ふか あし ふか
歩ける深さは足のひざくらいの深さです。

ふか き けん
それより深いところは危険です。

はや あさ
ながれが速いところは、ひざより浅くても

ある き けん
歩きにくくなり、とても危険です。

みず なか ある
水の中を歩くときは、つえやぼうなどを

も ある
持って歩きましょう。

みず なか なに
水の中には何があるかわかりません。

かく にん ある い
つえなどで確認しながら歩いて行きましょう。



しゃ どう とお
車道は通らないようにしましょう。

あな あ
マンホールなどの穴が開いていて、

き けん ば しゃ
危険な場所があります。

すこ たか みち ひ なん
少しでも高い道をえらんで避難しましょう。



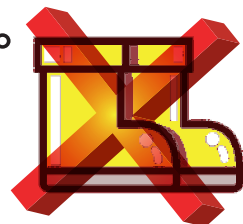
自分の身は自分で守る

安全に避難するために！ その2



避難するときは運動靴で！

長ぐつは、深いところに行くと、
中に水が入ってきて歩けなくなります。
にげるときは、運動靴でにげましょう。
裸足はあぶないのでやめましょう！



必ず2人以上で避難しましょう。

子供やお年寄りは、大人と離れないように
ロープなどで体をつないで避難しましょう。
近くに、お年寄りなどが住んでいる場合は、
避難するときに声をかけてあげましょう。
一緒に避難をしてあげると良いでしょう。



水害から身を守るためには
正しい情報と早めの避難が大切です。



じぶん ぶん み じぶん ぶん まも 自分の身は自分で守る

かぞく ひなん 家族で避難について はな 話しあおう！

いつも、かぞく ひなん について はな 話しあっておくと、
イザというとき スムーズに ひなん 避難ができます。



あぶない場所や道などをぼうさい 防災マップでかくにん 確認しておきましょう。

まち ひなん ばしょ あらわ かんばん すいがい
町のなかにある避難場所を表した看板や水害
のとき つ ふか あらわ かんばん かくにん
の時に浸かった深さを表した看板を確認して
おくとき ひなん 避難の時にスムーズに避難をすることが
できます。



自分の身は自分で守る

自助・共助・公助について

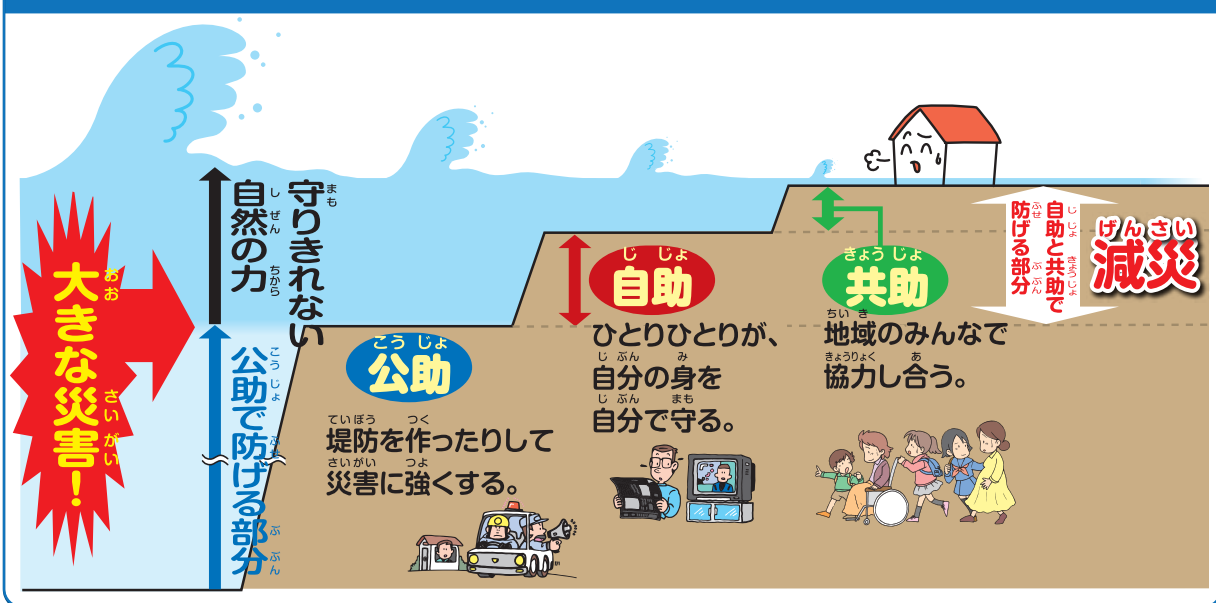
災害が起きたときの被害を小さくするためには、みんなと助け合う
 気持ちがかかせません。そのためにも、ふだんから防災に関する
 自分と地域との関わりについて知っておきましょう。

まずは、自分の身は自分で守る **自助**

地域や身近にいる人どうしが助け合う **共助**

その心がけと行動が **減災** につながります!

「公助」・「自助」・「共助」で取り組む減災のイメージ



イザというとき、「公助」だけでは守りきれない部分も、「自助」や
 「共助」のチカラで減災になります。



自分で やってみよう! 調べてみよう!

みんなで防災マップを作る

市町村からもらうハザードマップだけでなく、
自分の家から避難所まで、もっと詳しいことをみんなで
楽しみながら作ってみましょう。

①

地図を用意しよう。



②

自分の家と避難する場所に
印をつけよう。



③

水害が発生したらどこに避難するの？
避難所を確認しよう。また、どの道を通って避難すればいいかな？
3つくらいルートを考えてみよう。



④



自分で考えた避難ルートを歩いてみよう。
途中にマンホールや道のでこぼこなど、
水があふれて道が見えなくなったことなどを
想像しながらあぶない箇所を
チェックして、避難ルートを見なおそう。